

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:平成 31年 3月 4日他

公表:平成 31年 3月 13日

事業所名 : 子ども支援室 えがお

	チェック項目	はい	いいえ	無記入	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5				空間を工夫
	2 職員の配置数は適切である	5			児童発達の基本1対1付けるようにしている。	1対1つくことで子供は安心感が持っていると。コミュニケーションの部分でもやり取り等で支援ができる。しかし手助けが強くなってしまふこの自分でやろうとする気持ちを薄れさせていないか気を付けていく。 <b>支援の前に一呼吸</b>
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	1	1	仕方ないことではあるが保育室が2階にあるのは少し大変かなと思うが室内はできるだけフラットになっている。	身支度をするスペース。飲食するスペースなど空間をなるべく変えないように使っている。おもちゃコーナーなど隠せるようにできるとよいと思うが子どもたちが慣れて切り替えられるようになってるのは成長した姿と感ずる。何か子どもがバニックになった時など落ち着く部屋があるとよい。空間をバージョンで仕切る、絵本の <b>空間を上手く使う</b> などしていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		1	少しごちゃごちゃとしているがカーテンなどで目隠しをして工夫はしている。	児童発達と放課後の切り替え時にも簡単に整理整頓はできている。机の位置等もクラスによって変えている。 <b>空気の入替えも行っていくようにする。</b>
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	2		カンファレンスの時間を工夫して作っていく	朝礼時や、クラス前、終了時に話し合う時間を持つてはいるが、常勤、非常勤勤務で <b>全体でのカンファレンスを持つことがむづかしいが時間を作ってやっていきたい</b>
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1		ホームページを作成した、周知していく。	ホームページを作成した、周知していく。フェイスブック等で活動報告をしているが、写真を載せるときや個人情報で神経を使う。保護者からも毎日アップしている事業所のHPを見て、写真等をとったりHPに挙げる時間等を考えると支援に回してほしいなどの意見もある。なんのために載せるのか？ <b>目的をはっきりするとよい</b> と思う。利用者だけ見れるページ等を作るのはどうか調べてみる。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	3		朝礼時等に話し合いをしている。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3		第三者等の機関を考えていく。	客観的に見ていただくのは良い機会。相談員等に見ていただく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			研修参加はしている。共有していく。	地域療育等には積極的に参加、研修の情報も共有。受けた <b>内容を実践に落とし込めることができる</b> ところまで共有をしていく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5				発達のアセスメントからの課題の設定等で同じ方向を向いて支援が行えるように <b>だれもがわかる内容を心がけていく</b> 。書籍等で勉強中計画書内容の見直しを考えている。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5				キッズを年に1回行った。具体的な発達チェック方式のツールがあると段階もおつていける。遠城寺より細かい評価ツール
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5				本人支援は利用時に、家族支援にもケアを心がけているがサービスの途中でどこまで行えるのか、どこまで踏み込めるのか？悩むことはある。移行支援では行政との兼ね合いがあり難しいことの方が多。連絡会に参加をしているが自立支援協議会に声は届いているのか？国の施策通りにはいかない。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5				支援計画だけではなく課題についても行っていく。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5				今後もチームで考えていく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5				児童発達は繰り返しの中で得とくしていくこともあるので活動の継続はしていきたい。季節感、園外などの活動も積極的にこれからも入れていく。
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5				落とし込めていないように感じるので内容を見直ししていく。 <b>支援計画書の見直し</b>	

17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1		時間を見つけてカンファレンスを行っているが時間を工夫して作っていくことが課題。	<b>課題はスタッフ全員で共有。</b> 常勤で朝礼時に打ち合わせを行っているため非常勤のスタッフは参加できないので伝えることになっている。全員参加型ではない。役割等はボード等を使い周知は続けていく視覚的にわかりやすく。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2	1		
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			日々起こったことは職員で共有している。	療育後には話はしているが次へとつなげていくことは弱い。療育後のやるが多くなってしまいうので時間を見つけ共有できるように記録を考えていきたい。残業の許容範囲
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5			6カ月毎で行っているが課題の達成、見直しなどこまめに行っていく。	見直しは支援の方向性にも関係してくるので必要である。 6カ月毎で行っているが課題の達成、見直しなどこまめに行っていく。 支援スタッフも参加していく。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			あさひ学園保健センター学校教育課と連携をとっている。園庭開放にも積極的に参加している。	子ども連絡会に参加をしている。積極的に他機関と連携はとっていると思う。各機関でのばらばらの支援を求めていけるようにしていけるとよい。保護者に入っているサービス機関との連携
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			連携はとっているが交流等のかかわりは断られている。	連携はとっているが交流等は断られているのが現状。声を上げていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			移行者がいれば作成する。	移行者がいれば作成し保護者に許可を得る。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5				あさひ学園、学校教育課、保健センターと連携を今後もとっていく。また、これらの機関の企画する研修には積極的に今後も参加
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5			行政管轄の施設は交流が進められない。子供連絡会でも重要視されない。	行政管轄の施設は交流が進められない。子供連絡会でも重要視されない。声を上げていくことが必要と感じる
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	1			連絡会に参加している。午前に開催されるので、児童の時間帯なので体制を第1に考えての参加
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5				共有はできているが実際には家での生活に難しさを感じているご家族が多いので家庭での支援を考えている。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	2			昨年シリーズで学んできた(児童発達支援管理責任者)企画をしていく。 <b>今期1回は実施してみたい。</b>
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5				わかりやすい説明を今後も心がける。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5				利用の保護者とのコミュニケーションを心がけ信頼のおける関係を築きながら今後もより丁寧に懇談等を行っていくことを心がける。しっかりと時間を取り位置づけていきたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5				相談できる保護者と消極的な保護者がいらつしゃるので定期的に相談日を設ける。送迎時に話はできているが対話での相談事は日を改めるなど
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4			企画実行し保護者からの良い返事をいただいているので継続していく。定期的に開催することで相談にもつながっていけるとよい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5				保護者からの相談には迅速な対応を心がけているが、保護者から相談の申し入れがしやすいシステムをつくる。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1			6.7項目の答えと同作製の時間の確保
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5				他の事業者が職員に利用者の様子を尋ねてくることがあるが相談員を通していただく。保護者の確認をとることを厳守していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5				ケアには十分に配慮を心がけ関係機関との連携をとれているので連絡を取っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5				今後もイベントに積極的に地域に協力をお願いをしていくことでより理解、サポートを作っていく。。多くの方に声をかけていただけているとは感じている。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			どの職員も支持が出せるようにしていく。	どの職員も支持が出せるようにしていく。保護者の引き取り、住居確認など保護者を巻き込んだ訓練を企画していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	3			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5			新規利用時、モニタリングごとに確認をしている。	新規利用時、モニタリングごとに確認をしている。ご家庭での発作を連携していく。発作等の記録を取ってもらうことを検討。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2			対象児現在はいない必要があれば対応している
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1			徹底できていない。今後は強化していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1		研修等には参加できていない	研修等には参加できていない。今後は参加をしていく。また、職員の虐待に対しての学びを深め、自己点検票を利用していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5			身体拘束を必要とするお子様はいない。	身体拘束を必要とするお子様はいないが上記の学びを踏まえ、具体的に身体拘束に当てはまることはないか点検、共有をしていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。